

太陽光発電装置設置事業や環境学習のために作った「エコすごろく」を手に語り合うきょうとグリーンファンドのメンバー(京都市下京区)



認定NPO法人

きょうとグリーンファンド

(京都市下京区)

地球温暖化防止や再生可能エネルギーの普及に取り組み、今年で15年。京都府内の幼稚園や保育園などに、「おひさま発電所」と名付けた太陽光発電装置を設置するプロジェクトを広げてきた。

公共性の高い施設で自己資金で太陽光パネルの設置を計画するパートナーを募り、市民や企業から集めた「おひさま基金」で助成する。設置後は、売電の収益の一部をファンドの活動に寄付してもらい、次の発電所整備や啓発活動に活用する。これまでの設置場所は、京都市内をはじめ、宇治市の障害者就労支援施設や南丹市の自然食レストランなど18カ所に及ぶ。

また、おひさま発電所を拠点に地域の環境学習も支援する。設置者と協力し、学習会や子ども向けの講座を企画。例えば、子育てに関する意見を取り入れて作ったエコすごろくは、「ペットボトルのお茶を買う」「何回も冷蔵庫の扉を開けてしまつ」のマスに止まれば2回休み、「プールの水で打ち水して涼しくなる」なら一つ進めるといったように、遊びや日常の中で環境問題を考えるための工夫を凝らす。

太陽光発電 園児に省エネ教育

た電気代を会費や寄付につなげてもらおうと呼び掛ける一方、新たなおひさま発電所の設置施設も募集中だ。福島の原発事故以来、節電や自然エネルギーの重要性は日々増している。

事務局長の大西啓子さん(65)は「次世代にどんな社会を手渡せるか。みんなが当事者、一緒にやってみよう」と話す。

(佐久間卓也)

きょうとグリーンファンド クリーンエネルギーを活用した市民共同発電所をつくらうと、環境団体のメンバーらが2000年に設立。現在、個人・団体合わせて73の会員がいる。事務局 ☎075(352)9150。